

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771700281		
法人名	株式会社 鶴の恩返し		
事業所名	鶴の恩返しホーム		
所在地	石川県鳳珠郡能登町字小木1丁目161番2		
自己評価作成日	令和2年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	石川県金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和3年1月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、新型コロナウイルスの影響で外出が出来ず、毎年行っていた大相撲金沢場所や、歌謡ショーを観に行けず利用者様の要望になかなか答えられませんでした。食事に関しては、毎週金曜日に近所の魚屋さんから刺身の注文や、お寿司屋さんから持ち帰りの寿司を施設で食べたりし、利用者様も喜んでおられます。年度末、全施設合同の餅つき大会を利用者様が楽しみにしております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

重度の人が多いため、普段からなかなか外出することが難しいのであるが、今年はコロナのため特に外出等の制限を受けている。春と秋の祭礼の神輿が、利用者にとっても楽しみの一つであるが中止となった。最近では、天気の良い日にホームの前の駐車場から立山連峰を眺めたりするのが唯一の外出という状況である。
食事は魚料理や煮物など利用者が好むものを多く出すように心がけている。魚や野菜を地域の方からもらうこともあり、旬の食材を使った食事を楽しんでいる。毎週金曜日の夕食は、近くの魚屋にお刺身を注文したり、大晦日と誕生会は寿司の出前を取ったりして食事を楽しんでいる。また、経営者の実家が北海道であり、トウモロコシやジャガイモなどの北海道の物産を楽しむこともある。その他、正月はおせち、ひな祭りはちらし寿司、敬老会などは特別食で食事を楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	終生の家として、家族の暮らしを継続していけるよう、ホームの理念を定義しているが、全職員が共有出来ていない。時間をかけ、全職員が共有できるよう指導している。	管理者は、利用者の尊厳や意思の尊重を基本とした理念を共有し、実践するためにミーティングの時やカンファレンス、申し送りの時に理念について職員に話している。職員入職時には、管理者がマンツーマンで指導し、その中で理念についての教育を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、春と秋の祭礼に神輿を施設に招き、神輿の見学や利用者様がおみくじを引いたりされていましたが、新型コロナウイルスの影響で祭礼が中止になった為、今年は実施できず	重度の人が多いため、普段からなかなか外出することが難しいのであるが、今年はコロナのため特に外出等の制限を受けている。春と秋の祭礼の神輿が、利用者にとっても楽しみの一つであるが中止となった。その中でも誕生会などに出前を取ったり、毎週金曜日には近くの魚屋さんかに刺身を注文して皆で味わっている。また、天気の良い日にはホームの前の駐車場から立山連峰を眺めたりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響で自粛している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は開けず。書類を運営推進会議委員の方に送付している	令和2年3月以降に開催予定の運営推進会議について、感染拡大防止の観点から延期または中止としても差し支えないとの国の通達により、今年度は委員が参集して会議するという方法によらず、内部的に利用者の状況や、行事報告、事業所の取組等を、まとめて各委員に送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は中止している。文書や電話で連絡を取り合っている。	事業所の所在地である能登町以外に、輪島市、珠洲市とも協定を結び利用者を受け入れているので、3つの市町と連携を図っている。コロナのため、直接出向くことはなく、郵便やメール、電話でのやり取りを行っている。最近特に、マスクやグローブ、消毒液等の不足についての連絡が多くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、4本柵拘束は2名様・ツナギの使用は1名様です。ケアカンファレンスとご家族様の同意を頂いています。目標は、拘束0です。	身体的拘束等行動対応指針が整備されていて、研修は毎月のミーティングの中で実施している。身体拘束の適正化の委員会は、運営推進会議の場で取組まれている。建物の施錠は、夜間防犯上の観点で実施している。転倒予防のためにセンサーを利用している利用者も2名いる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの影響の為、研修は中止している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会を実施出来ていない。新しい職員が入社したので、今後勉強会をしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様からの、入居希望はほとんどない。家族からの申し込みにより入居となる。契約に関しては医療現場、又は自宅に出向き情報の収集に努め、家族の要望、疑問点等を伺い、サービス内容の説明をし契約を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、ケアケア日誌を配布。返信封筒を同封し、意見や要望を書いて頂き返信していただいています。面会や電話対応時に、意見などを聞いています。全職員も、認識しています。	遠方の家族が多いため、連絡は電話や郵便が主になっている。コロナのため直接に家族と話すことが出来ない代わりに郵便で利用者の状況を細かく伝え、意見や要望については返信用封筒を同封して回答してもらっている。苦情の体制は整備され、重要事項などで周知が行われている。特に大きな苦情は寄せられていない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度、全施設の管理者会議を実施しています。ホームでは、ケアカンファレンス、業務カンファレンスを通して話し合いを実施しています。	管理者は他のスタッフと同じシフト勤務に入っているため、いつでも職員の意見や提案を受けている。法人の代表者もすぐ近くに住んでいるので、ほとんど毎日グループホームに顔を出し、利用者の状態を見たり職員と会話している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては、管理者の意見を聞き、本社が毎年給与水準を上げています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・看護師が現場に入り、随時、職員の指導及び教育をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅ケアマネ、医療現場のソーシャルワーカーとの交流を密にし、サービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様や家族からの意見や思いを取り入れて、本人のニーズに合った生活をして頂けるよう取り組み支援している。職員、全体で共有し実践していけるようにする。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス契約時に、利用者及びご家族と面談し、本人の性格や家族様の要望を聞き入れる。またサービス導入後も、ご本人及びご家族様の面会時や、電話連絡等で要望等を聞き支援していく。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始した理由とする課題とともに、入居の際の本人と家族の意向を受け入れ、ホームや職員に対して安心感を持って頂けるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様に合った1日の日課のお手伝いを職員と共にし、自分で出来ることは見守り支援をしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベント等は実施している。ご家族様の参加はありません。ご家族様も高齢になり極力負担をかけないようにしています。実施したイベントに関しては、ケアケア日誌を通じてお伝えし信頼関係の構築に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様から外出の依頼がある時は、家族の要望があれば、送迎している。馴染みの人や地域との繋がりを大切に、断ち切らないよう支援している。外泊も同様支援している。	コロナの影響で利用者にとってのなじみの場所に出かけたり、友人と会ったりということではできなくなっている。天気の良い日にはグループホームの前の駐車場から立山連峰を眺めたり、職員と一緒に病院へ行くことしか外出することが出来ない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声掛けし、1日2回生活リハビリ、カラオケ等全員が参加できる行事をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでターミナルを迎え、他界された利用者様のお通夜や葬儀に職員は参加している。強制ではなく自分の意思で参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望になるべく答えられるように努めている。前回の課題にもあったが、本人の言葉を日誌にしっかり記入していくのを職員全体で統一していきたいと思います。	利用者の意向把握のため、よく話を聞く(傾聴)、聞いたことを日誌に記録し共有し共通した理解ができるように努めている。ひとり一人のサインを把握し、例えばソワソワしていることがトイレへ行きたいことを表していることを理解して、利用者本位のケアができるようにしている。家族からの情報も参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、利用者様の情報の収集や家族の方が面会時に情報収集をしている。今までの暮らし、生活環境を理解し、今後のサービスにつなげていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日ごろ利用者様の会話、バイタル記録、ホーム日誌、個人記録、職員からの情報により把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を重視しながらケアプランを作成し、意見を求めている。ケアカンファレンスの場で、全職員が意見を出し、評価の見直しを行っている。	計画作成担当者がアセスメントを行い原案を作成し、ケアカンファレンスで計画をスタッフに周知している。モニタリングは短期目標の期間に合わせて、6か月ごとに行い計画もその都度更新している。記録は、個人日誌、利用者連絡帳、三測表等がある。利用者の記録は毎月家族に郵送してここでの暮らしぶりを伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の内容には、職員の考え方・見方による違いがみられるが、ミーティング・カンファレンスを通じて全職員共有できていた。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営者のターミナルケアの方針を含め、多機能化されている。グループホーム、小規模多機能に看護師が勤務していて、かかりつけ医の指導のもと、ターミナルまで受け入れ体制を整えている。又、歯医者者の指導のもと、口腔ケアに力を注いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響の為、外出はできないが、近くの寿司屋に持ち帰りで利用したり、毎週金曜日に近くの魚屋さんから刺身を注文したり、近くの床屋さんで散髪をしていただいたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターを定め、定期往診、臨時往診を依頼している。又、本人やご家族様の意向により、他の医療機関への受診の対応に同行し支援しています。	利用者の主治医は協力医療機関となっていて週に一度往診してくれている。それ以外にも、例えば発熱時にはその都度対応してくれている。夜間も協力医療機関は対応してくれるので、常に適切な医療につながることが出来ている。利用者は独居の方が多いため、家族も医療については安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師1名、正看護師が1名勤務しており、状態変化時、連絡を密にし、異常の早期発見、苦痛緩和に努め救急処置の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクターの指導のもと、他の科への受診、入院先とも連携を取って情報を得て、介護・看護に役立てている。今年は入院は0でした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に終末期に対するホームの方針を伝え依頼が有る時に受け入れてきている。ホームドクターの指示のもとで連携をとりながら看取りケアを行なっている。	今年は見取りの事例はないが、過去には多くの看取りを行っている。現在看取りについての同意書ももらっている利用者が2名いる。事業所として、基本最後までここで暮らしてもらおうという方針のためか、重度の方が多く、全介助状態の方が4名、車いす利用の方が6名となっている。どうしても施設での生活が難しい場合には、管理者や代表が家族と話し合い、次の施設(病院)への移行がスムーズにできるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正看護師、指導のもと応急時の対応等を勉強している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急時の連絡網を含めた「緊急時マニュアル」がある。緊急時は、ホームドクターと看護師の指示のもとで対応している。ミーティングの際に、看護師からの指示を受けている。	「鶴の恩返しホーム 指針」が作成され、「事故発生のための指針」として「介護事故に対する考え方」、「事故防止委員会の設置」、「職員研修に関する基本方針」、「インシデント・アクシデント報告体制」、などが示されている。また、「鶴の恩返し 緊急マニュアル」があり、応急処置や感染予防に関する対応が示されている。その他、「緊急連絡体制」、「入居者名簿」、「職員連絡先」が事務所に掲示してある。職員へは、ヒヤリハットや事故報告書が提出された場合、マニュアルを確認するように話をしている。また、変更があった場合に、随時マニュアルを変更している。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関は、升谷医院と珠洲病院で、24時間(休みも含む)往診・受診・相談が可能であり、往診、受診を通して医療機関との連携は行っている。協力医療機関以外にも宇出津病院が24時間、受診、相談が可能である。介護老人福祉施設協力施設との支援体制も確保出来ている。	協力医療機関は、升谷医院や珠洲病院である。升谷医院は、週1回往診に来て、緊急時にも往診してくれる。1年を通し、いつでも連絡が可能である。バックアップ施設は、第二長寿園であり、災害等の緊急時には連携することがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者は1名だが、車で3分以内の所に職員の家が有り、いついかなる時も、連絡が取れて、指示を受けて、駆けつけてもらう事が出来る。医師も夜間の対応が可能で有る。	夜勤者は1名であり、17:30から翌朝5時までが一人体制である。利用者の状態に変化があった場合、看護師に連絡し指示を受けている。看護師が必要と判断した場合、協力医療機関に連絡し、指示をもらったり、往診に来てもらったりしている。夜間帯に救急車を呼んだ場合は、夜勤者は救急車に同乗するため、管理者または近くの職員が応援にくることになっている。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を受けている。避難経路の確認や消防設備点検は、定期的に行っているが地域住民参加にまでは至っていない。年1回地区の防災訓練参加。	令和2年3月に総合訓練、10月に通報訓練を実施している。消防設備点検も実施済である。例年は、地域の防災訓練にも参加しているが、今年度は中止となっている。	
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害マニュアル、緊急時連絡網を提示し連絡体制は整備されている。必要な備蓄品をリスト化し確保している。法人全体の応援体制も整備されている。	「鶴の恩返しホーム 指針」が作成されており、その中に「防災指針」があり、火災や地震、風水害豪雪への対応が示されている。また、防災マニュアルが作成され、その中で備蓄リストが作成されている。食料、水、カセットコンロ、携帯カイロなどの防災用品が備蓄されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本年度は、新型コロナウイルスの影響で、勉強会は実施していない。新型コロナウイルスの勉強会のみ実施。	利用者の身体状況は、6名が車椅子を利用し、2名は手引き歩行、1名がシルバーカー利用である。そのため、普段から利用者の話を傾聴し、本人の希望を聞き取るよう心がけている。そして通常なら、その聞き取った希望を家族とも話し合い、実現できるように取り組むようにしていたが、今年度は新型コロナのため家族との話し合いは行っていない。また、利用者のプライバシーを守るため、利用者の個人的なことについて、他の利用者の前では話をしないように心がけている。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外泊希望などご家族の了承を得る必要も有るが、電話で取り次ぎカラオケ、外食など本人の自己決定も含めて話し合い、出来る限りニーズに合わせられるように支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り思いを汲み取るようにしているが、昼夜逆転者には、その人のペースで起床や食事を行っているが、入浴に個人のペースを尊重出来るようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全介助状態で清潔保持の為、衣類の管理はホームで行っている。毎日の起床時の着替えを実施している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事は、ホームで調理しています。以前は食事後の茶碗拭きをしていただきましたが、現在は出来る利用者の方がおられず。	食材の買物や献立は、調理専任の職員が行っている。献立は、魚料理や煮物など利用者が好むものを多く出すように心がけている。魚や野菜を地域の方からもらうこともあり、旬の食材を使った食事を楽しんでいる。米は地元産の米を使っている。毎週金曜日の夕食は、近くの魚屋にお刺身を注文したり、大晦日と誕生会は寿司の出前を取ったりして食事を楽しんでいる。また、経営者の実家が北海道であり、トウモロコシやジャガイモなどの北海道の物産を楽しむこともある。この他、正月はおせち、ひな祭りはちらし寿司、敬老会などは特別食で食事を楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ホームドクターの指示のもと、利用者様の疾病等を配慮し支援しています。1日の水分摂取量は1500ccを目標に支援しています。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを実施。利用者様が出来ない場合は、職員が支援しています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在留置カテーテルの方が1名。極力トイレに通える方には見守り支援。一部介助が必要な方には、声掛けをトイレに誘導しています。管理はホームドクター指示のもと、看護師の判断にて定期的の下剤、排便を施行しています。毎回、おむつ交換時、陰部洗浄を実施し、汚染を予防している。	排便表を作成している。2～3日排便がなければ、下剤などで便秘を解消するように配慮している。排尿については、排泄量も日誌に記入し、健康状態を把握し、トイレへの声かけのタイミングの参考にもしている。また、車椅子の方であってもトイレでの排泄を希望する方については、トイレで排泄できるよう支援している。また、排泄介助の際には、他の人から見えないように配慮している。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホームドクター指示のもと、水分不足の無い様に努め、排便するよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助状態の利用者様が4名入居しています。現在、夏は週3回・冬は週2回入浴を実施し、清潔を保持に努めている。	入浴日は、夏週3回、冬週2回で、その日に利用者全員の入浴介助を行っている。利用者のうち8名が機械浴での入浴である。入浴の際には、一緒に歌を歌ったり、いろんな話をしたりしてコミュニケーションを取っている。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間は利用者様に合わせています。車椅子使用の方に関しては、長時間の使用はしていません。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ノートに薬情を添付しているが、内容を全職員が把握できていない。今後、担当を決め勉強会を開催していく。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃はカラオケ、生活リハビリ、各利用者様に応じた好きなことをして頂いています。のど自慢予選にも以前参加しました。歌の好きな方には、家族の了解を得てYou Tubeに上げば尊しを唄い、投稿しました。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスの影響で、外出がなかなかできず	気候の良い時期は、ホーム周辺を散歩していた。春には花見ドライブに出かけた。その時に、利用者の自宅の近くを通るようにした。自宅の近くを通ると喜ばれていた。現在は、ほとんど外出できていない。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在いません。基本的にはご本人、ご家族の同意を得て立て替え購入しています。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を極力叶えています。叶えられない方は、手紙等にて対応しています。(ご家族様の方には好まれない方もいますので)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を味わう為に、職員の作った鯉のぼりや七夕には短冊を書いて頂いています。又天気の良い日は立山連峰を観ています。	リビングには、カラオケの機器が取り付けられてあり、好きな人はよくカラオケをしている。利用者の多くは皇室が好きで、リビングには皇室カレンダーを掲示している。利用者の一人は、毎日昭和天皇の写真を拝んでいる。真冬はエアコンだけでは暖かにならないので、石油ストーブも活用している。また、空気清浄機や加湿器も利用し、居心地よく過ごせるように配慮している。そして、正月、節分、ひな祭り、鯉のぼり、七夕、祭、クリスマスなど、季節に応じた壁飾りなども行っている。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様が居心地良く生活出来るよう支援しています。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	気質や体調に合わせた配慮をしている。本人の誕生日の時の職員の寄せ書きや写真を飾っている。	入居される際、最低限の持ち物で入居される方が多くなっている。ただ、家族の写真や思い出の写真、自分で編んだベスト、時計などの思い出の物を持ち込んでいる人もいる。また、ADLが重度に低下している方が多いため、居室には転倒防止及び重ね着防止のため、必要最低限の荷物を置くようにしている。ただ、自分で移動できる方が1名いて、気が向いた時にリビングに出てきて、自分でトイレに行き、好きな時に居室で気ままに過ごしている方もいる。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりを設置し、危険のある利用者様は、リビングから見守りやすい位置とし、すぐに駆けつけられる状態に対応している。		